

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170401764), 法人名 (株式会社ハートケアライフ), 事業所名 (グループホームハートケアライフ八軒 1Fぬくもり), 所在地 (札幌市西区八軒5条西3丁目3-26), 自己評価作成日 (平成31年1月5日), 評価結果市町村受理日 (平成31年2月15日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_02_2_kani=true&JigyosyoCd=0170401764-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年1月22日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各々の能力に応じた支援を心がけています。現在意欲的な入居者の方が多く生活されています。毎日の日課としてストレッチ、リズム体操を皆様生き生きと行なっています。特にボール投げ運動では若さを取り戻したかのように活気溢れています。機能低下された方へも他入居者の方が優しく声を掛けて労わりながら輪になっていきます。町内会、地区センターの多彩な行事へも多数参加されています。昨年は夜に開催されました、自衛隊音楽隊の演奏会へ参加壮大な演奏を楽しめました。事業所ではハートカフェを月に2回開催して地域の方々への認知度を高めると共に、入居者の方が地域の方々の馴染みの関係性が築かれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は西区八軒地区の住宅街にあり、大型スーパーや医療機関とも近く、バス停やJR駅も身近で、利便性に富んだ地域に立地している。建物は2階建て、各階に1ユニットが入り、2ユニット18人が生活している。当事業所の優れた点で最初に挙げたい項目は、積極的な外出支援を取り上げたい。市内で行われる雪まつりや動物園等の大型行事から、予防センターでの地域催し会、町内会での盆踊りや夏祭り等々、また参加する内容も鑑賞会や観光、見学などと幅広く行っており、出掛けたいという利用者の要望と閉じ込めないという事業所の方針が、頻繁な外出支援となって実践されている。次に地域との交流にも注目したい。地元の中学生の職業体験から町内会と共同でのお祭開催、踊りやギター演奏のボランティア受け入れ等々多彩に交流を続けている他に、地域への役割として、ハートカフェの開催や認知症サポーター養成講座、徘徊模擬訓練を主体的に担い、地域密着型事業所として地域に大きく貢献している。また、ケアでも利用者の様子をホーム便りの他にお手紙や介護記録の写しも毎月提供し、常に利用者の生活を第一に考え実践している当事業所に、今後も期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内、各自が理念を名札に入れて携帯し意識すると共に日々の業務に活かされています。	ハートあるふれあいとささえ合いを基本に、5項目からなる理念を要約し廊下に掲示し、また名札に添えながら、毎日の介護に活かせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での行事には常に3～4名の方が参加されています。事業所では月に2回ハートカフェを開催して地域に方との交流を深めています	地域的な繋がりは多岐にわたり、中学生の職場体験から各種のボランティア等の受け入れとしての機能から、地元行事への参加、憩いの場としてのカフェの開設等々、地域のニーズを牽引し、交流の先頭を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ハートカフェを開催し、入居者の方の様子を見たい頂いています。地域中学生の職業実習を受け入れて、実際に生活の様子や職員に仕事の内容を体験して貰っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の現況報告と毎回テーマを決めて発表し質問やご意見を伺いサービスの向上に活かしています。	推進会議委員は町内会、家族、行政も包括センターから福町担当、地域のまちづくりセンターと地域に欠かせない委員で構成され、会議も活発で行事や事故報告、介護施策や拘束の予防、災害対策まで及んでおり、サービスの向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に予防センターの担当者や連携を取りお互い情報を交換するような形で協力関係へと取り組んでいます。	地域の連携として行政とは、町づくりセンターや包括と密接な交流を維持し、直接窓口にも申請や相談、各種の情報交換で日常的に伺っており、相互の協力体制が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に開催し全体会議で取り上げ、全職員が周知される様に取り組んでいます。	普段からマニュアルでの確認と内外での研修参加により、拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。また、身体拘束委員会は3ヶ月に1度開催され、事例を検討しながら今までの介護を検証し、職員全員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加する機会を持ち会議で発表し周知して防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者では必要とされる方がいませんので支援はしていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設長からしっかりと説明が行われて、理解を得られています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しています。意見、要望があった場合は全職員間で話し合い結果を玄関に掲示してご家族や外部の方へ表せる機会を設け次に運営に反映させています。	利用者の生活の様子を、ホームだより、毎日の介護記録、担当職員のお手紙等の3通りの方法で毎月発信している。意見や苦情等々は玄関に設置した意見箱と、訪問時の聞き取りで聴取し、結果は運営推進会議で報告し、日々のサービスに繋げている。	お便り、介護記録、お手紙と幾つもの方法で利用者の生活を伝える努力に最大限の敬意を表したい。今後は、それらのサービスについて、家族はどのように思っているのかサービス満足度調査を実施し、より質の高いサービスを目指すように期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者へはいつでも意見や提案が出来る環境であり代表へは定例会議や出勤時に話す機会があります。	毎月の会議や毎日の申し送り時に、色々な提案やアイデアが出され、また代表者は毎年個人面談を実施し、職員の意見や提案、自己評価と目標等を聞きながら、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年自己評価を行い実績や努力に応じて給与に反映されています。各職員の個性を活かした職場環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内書は全職員が把握出来き希望があれば随時参加出来ます。施設内研修では各職員へ発表の機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者連絡会へ所属し研修への参加を通じてサービスの質の向上を深めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	サービスの開始の際には本人家族他事業者医療機関からの情報を得て本人の生活習慣思いを尊重し安心出来る様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族共に安心して本人を支えて行こうと思える雰囲気作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談での本人家族の情報を重視し、最善と思える支援を初回のプランに反映しています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話から何をしたいのか何を求めているのかを伺い又意思表示が困難となっている方へは思いを組みとるように努めています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	節度と親しみのある態度を心掛け、訪問時には御本人の様子をお伝えしながらご家族様には共に支えていくという関係性を大切にしています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週に1～2回訪問される家族様が4名います。友人の方がお弁当を持参され居室で半日過ごされ楽しい時間を過ごしています。	家族等の来所時にはゆっくりと語られるように配慮している。利用者の希望を優先し、元の職場があった地域や好きだった食べ物屋にも同行し、馴染みの思いが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性もありますが毎日欠かさずに行なう体操、レク活動を共に行なう事で入居者同士の社会性が発揮されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行なっています。入院先への訪問も行なっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活で出てくる言葉や仕草を読み取り情報を共有し把握に努めています。困難な場合は家族と相談して職員同士話しあい検討しています。	日常生活に寄り添い、好きな事や嫌な事を職員全員で把握し、思いや望みを具体化しながら介護計画に盛り込んで、本人本位の生活に成るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供書や本人家族との会話の中で今までの暮らし方、好み等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その日の行動の変化を観察し気づきノートを作成し些細な事も書き出して情報の共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや職員同士ケアを行なう中で気づきを話し合い必要に応じて家族、主治医とも相談しています。会議で話し合い介護計画の見直しに活かしています。	担当の職員から日頃の様子を提起してもらい、カンファレンス会議で家族の希望や医療的観点も取り込みながら介護計画を作成している。病変や体調の変動等が見受けられた場合は、現状に即した介護計画になるよう変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々に様子を介護記録に記入し家族へは毎月複写を送付しています。申し送り時に情報を共有し次に見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全てに入居者に対して同じ事は出来ない事もありますが都度柔軟にと取り組んでいます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、地区の行事を町内会のお便りや予防センター職員の方からの情報があり変化のある生活を支援できています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望を優先としています。往診以外の病院を利用している方の医師との連携も行なっています。	かかりつけ医は本人や家族の希望を尊重しているが、状況に応じて往診や訪問看護も検討し、安心できる医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師の訪問があります。細かに情報を伝えていきます。必要に応じて医療機関家族への医療面での連絡を行ない支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期に介護添書を送付し入院中も相談員、看護師との情報交流を行なっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	入居時にホームで対応出来る支援内容を説明し理解を得ています。緊急延命処置の希望も書面で交わしています。入居後は主治医と支援に取り組んでいます。	契約時に重度化した場合の指針を書面で説明し同意を得ており、医療的対応が不十分のため看取りに至っていないが、転医先が決まるまで最善が尽くせるようにチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全職員を対象に訓練を行なっています。夜間の緊急時には管理者が駆けつけれる体制を取っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム全体で年2回地震災害時に対応出来る訓練を実施しています。	年に2回、消防署の指導下による避難訓練を実施している。防災での町内会との協力体制を確認し、食料や飲料水の有無等、必要な備品の点検を行い、利用者の安全に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴、性格を理解し個々に合った言葉掛けをするように努めています。	介護の基本は礼節を尊ぶ事である旨を理解し、親しさと馴れ馴れしさに注意しながら、一人ひとりの個性を大切に守りながら接し、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人が自由に思いや希望を表現できるように関わっています。表せなくなっている方へは汲み取れるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人のにとってどのような過ごし方が良いのか都度工夫に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔、保持を大切にしながら本人が着たいと思う物を着れる様に支援しています。本人が選べない方へは似合いそうな服を選んでいきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感や誕生日には好きな物を取り入れ栄養バランスを重視しながらも目で楽しめるメニューを工夫しています。皮むきやゴマ擦り、茶碗拭きやテーブル拭きをお願いしています。	献立は作成しているが、品数を変更したり「お酒の日」には一品加える等々、一人ひとりに合わせながら食事支援に臨み、テーブル拭きやおしぼりの整理などのお手伝いもお願いし、みんなで楽しい食卓になるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に食事量、水分量をチェック表に記入し職員全員で把握しています。個人的に食べたい物は家族が持参され食事時に提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行なう方は3名です。他は起床後、就寝時他は必要に応じて支援しています、		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により各人のパターンを把握し声掛けや誘導しています。出来るだけ自分で行なえる様に見守りしています。	排泄はトイレで行うことを基本として、時間での誘導や、排泄サインや仕草を見落とさず、自然な排泄となるように、食べ物にも気を配り、排泄の自立に向け努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、運動等で便秘の予防に取り組みながら必要に応じて主治医へ相談して下剤の処方もあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意思を確認しています。週2回以上の入浴を行なっています。	入浴日は固定化せず、毎日お湯を入れて待機しながら、全員が週に2回以上は入浴できるように努めている。入浴剤を使用したり、会話を楽しんだり、楽しいお風呂となるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く夜間眠れる様に日中メリハリのある生活を送れる様に支援しています。浮腫みのある方へは午睡を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも確認が出来る処方箋の場所を周知しています。ミスがない様に個人毎のチェック表で確認しながら服薬の介助をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクの内容を工夫したり、決められた役割はありませんがその時々で出来る事を行なう事で満足感を持ち過ごされています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見、盆踊り、紅葉狩、地下歩行空間の菊祭り、大通り公園のイルミネーション、町内会の餅つき、自衛隊音楽隊演奏会、地区の行事誕生日の外出ランチと多彩な外出でした。	桜等の花見や紅葉見学の他、気軽な散歩を日常的に楽しんでおり、また市内での祭りや地区での催し、地域や団体の行事にも積極的に同行し、音楽や外食、生け花、映画、花火等々と積極的に外出に取り組み、閉じこもらない介護に徹している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば家族と相談しています。1名の方は所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1名の方は携帯電話を所持しています。他家族の方が訪問時に携帯電話で遠方の方と通話されています。他希望者へは都度対応		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内、廊下にソファ、椅子が置かれ、自由に過ごされています。季節の飾りを入居者の方と作り居心地が良く過ごせる様に工夫しています。	食堂兼居間の共同空間は、明るく開放感があり、温度や湿度も適性に保たれ、快適な生活を保障する造りとなっている。壁には利用者の作品やホームダよりが貼りだされ、和やかな佇まいとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内や居室内で気の合った人同士が自由に移動して会話を楽しまれています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険な物がないか配慮しながら思い出の品や家族写真、本人の好きな物を自由に置いて本人が居心地良く過ごせています	居室は馴染みの家財や小物類が置かれており、仏壇を持ち込まれた部屋もあり、一人ひとりが居心地よく時を過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差が無く廊下、各箇所には手すりがありドアも開閉しやすい物を設置し安全を重視した生活環境を心掛けています。		